

朝日連峰 大朝日岳山麓

ハチ蜜の森から

No.37



フラワーキャンドル

娘二十歳のバースデイキャンドル

おかげ様で子供は二人とも大人になりました。

ハチ蜜の森

採蜜ができるトチやキハダをはじめマンサク、コブシ、カエデ、ヤマザクラ、ドウタン、ウワミズザクラ、ミズキ、クリ、ハクウンボク、タラ、コシアブラ、センノキ、ヌルデ、クズ、イタドリ…と、数多くの蜜源植物を抱える森のこと。ハチ蜜の森キャンドルはその森の入口にあります。

編集発行

ハチ蜜の森キャンドル

代表 安藤 竜二

☎990-1573 山形県朝日町立木 825-3

☎・FAX 0237-67-3260

メール mitsurou@alto.ocn.ne.jp

ホームページ mitsurou.com/

fb facebook.com/hachimitsunomori

発行日 2015年8月24日

不 安

少し大げさだと思われるかも知れませんが、心配なことを書いてみます。私の自宅は 200ヘクタールの広大な水田に囲まれた集落にあります。蜂や虫好きな私は、ここ数年でいろんな生き物が減ったように感じているのです。

はじめておかしいなと思ったのはアキアカネでした。子供達の運動会の空に、私の頃にはあった、空一面に交尾しながら飛ぶ赤トンボの風景がないのです。

家の前を流れるコンクリートのU字溝には、ドジョウがいなくなりました。以前は近づくとは何匹もあわてて逃げる様子が見えましてし、ペットボトルで作った“どう”に20匹以上も入って親子で驚いたこともありました。

イナゴも田んぼにいませんでした。子供たちの保育園では、秋になると目の前の田んぼで捕まえ佃煮にして食べていました。

カブトムシは、白色街灯に寄って落ちたものを夜や朝に捕まえます。毎朝、街灯ごとに車に潰されていましたが、今は一匹も見当たりません。一緒に飛んでくるコガネムシや大きなヤママユ系の蛾すらいません。アゲハ蝶は、近頃見た記憶がありません。

少し回復したようですが、5年前位からスズメが激減しました。私の家と小屋には毎年必ず作る場所が三カ所あるのですが、ここ数年一カ所も作らなくなりました。

スズメバチは、毎年 40 件前後の駆除を頼まれ 30 年以上続けています。キイロスズメバチの巣は、9～10 月にもなると、バスケットボールの 1.5 倍ほど大きくなります。しかし、数年前から小ぶりになり、去年は大きなものは、バレーボール大のものがたった一つだけでした。彼らの餌になる大型昆虫が減っているのではないのでしょうか。

野生のハチは全般的に減った気がします。自宅周辺で、マルハナバチも黒くて丸いクマバチもめったに見かけません。記念碑に何年も営巣していたニホンミツバチもいなくなりました。その他名前も知らないハナバチ類や



ハナアブ類も、少し前まではもっとたくさんいたように思うのです。100m のひまわり畑を歩いてニホンミツバチがたった 2 匹だけ。今年は甘い香りのクズもたくさん咲きました。蜂がいない不気味な風景です。

全国の養蜂家のミツバチが元気をなくしているのも確かです。養蜂新聞に掲載される地域ごとの会議の議事録に農薬被害の話題は絶えません。これは研究者の間でも賛否ありますが、愛媛大学と金沢大学で、ネオニコチノイド系農薬による影響が大きいとする発表がなされました。特に人里で飼育しているミツバチには影響があります。果樹や野菜の蜜や花粉、稲の花粉など、ミツバチの餌が汚染されることにより死んでしまったり、帰れなくなったり、免疫力が落ちて病原菌やダニに冒されやすくなっていると考えられています。

実家の養蜂場は奥山なので、人里のミツバチのような影響はないのですが、夏になると少し元気がなくなるような気がします。やはり、春の一ヶ月間、花粉交配に導入した果樹園の花蜜に含まれる微量の農薬が、女王蜂や次世代の幼虫に影響しているのかも知れません。業界では、ビフィズス菌やビタミン剤など様々な健康栄養補助飼料が出回っています。ミツバチの生活を見ていると、健康ドリンクやサプリメントを飲む現代人の生活の縮図を見ているようです。

5 月、厚生労働省は、農薬の大手メーカー住友化学の使用申請を受け、ネオニコチノイド系農薬のクロチアニジンとアセタミブリドの食品残留基準値を緩和しました。ほうれん草はクロチアニジンならこれまでの 3ppm が 14 倍の 40ppm まで許されました。これは 1kg 中に残っていても良いとする農薬残留値です。

ネオニコチノイド系農薬は、有機リン系農薬としくみが似て、昆虫の中樞神経に働きかけ、神経伝達を狂わせ、異常興奮や麻痺など、脳が正常に働かないようにして死に至らせるものです。ここ 15 年ほどで売上が激増し、農薬のみならずハエやゴキブリの家庭用殺虫剤、住宅建材、ペットのダニ・ノミ駆除剤など、生活環境全体をとりまいています。

影響は、昆虫と同じ神経系を持つ人にも及ぶと警告する学者や医師がいます。特に、身体の子供や小児の脳の発達を阻害し、発達障害や多動性障害、自閉症になる可能性が示唆されています。さらに神経系だけでなく、アレルギーや免疫系、皮膚、生殖器系にも影響を及ぼすという報告もあり、環境系 NGO や消費者団体などから基準値の引き下げを求める声が上がっています。

この農薬がとても心配なことは、「浸透性」と「残効性」が高いことです。茎や葉、花、花粉、蜜、果実などに行き渡り、長い期間内部から殺虫効果を持ち続けるのです。葉を食べる虫達と同様、訪花昆虫の激減は、餌の蜜や花粉が、以前と違い「常に」汚染されているからなのです。スズメは、農薬散布後にあたる 8 月後半、稲穂が固まる前のジュース状態のものを吸うのが大好きです。きっと同じことが起こっているのではないのでしょうか。

それは人も同じです。この農薬は染み込んでいるので、いくら洗っても落とせないのです。全てとは言いませんが、私達は虫が食べて死ぬ農産物を食べているのです。厚生省は大人の体重 53kg で基準値を定めていますから、子どもや、虫とさほど大きさの変わらない胎児への影響は考慮していません。

そして、なにより不安に思うのは、国の定める残留基準値が緩いのです。食品や農薬ごとに違いますが、概ね日本はアメリカの 10 倍、EU の 100~1000 倍緩いとされます。例えば、アセタミプリドのイチゴの残留基準値は、EU 諸国は 0.01ppm、アメリカは 0.6ppm、日本は 3ppm です。ネオニコチノイド系農薬について、EU は一昨年から安全性が確認さ

れるまで暫定的に使用を中止しました。アメリカや韓国でさえ新規の使用を禁止しています。そんな中、日本は逆に大幅緩和です。

改正されたクロチアニジンの残留基準値 (ppm/kg) は、毎日食べる米が 0.5→0.7、レタス 3→20、シュンギク 0.2→10、コマツナ 1→10、ニラ、パセリ 2→15、ミツバ 0.02→20、と大幅に緩和。茶葉は改正前から 50ppm。なんで日本はこんなに基準値が高いのでしょうか。本当にこれらは適切な値なのでしょう。

気になることがあります。使用申請を出した住友化学は、自民党への献金額が毎年ランキング上位。2013 年は特に高額の 3600 万円。緩和した分、売上は上がるのです。疑わずにいられませんし、国の経済策は、安保法案や原発然り、国民の安全の切り崩しに思えます。

4 年前に日本人の最も多い病気として五大疾病に仲間入りした精神疾患（うつや不安障害、痴ほう、性機能障害、自閉症、発達障害、多動性障害等）、そして食物アレルギーなどは、食品添加物と相まって、やはりこの農薬の摂取が大きな要因なのではないのでしょうか。

25 年続けている体験教室では毎年千人以上の子供と接しますが、そういった病気を抱えている子供はあきらかに増えています。ぞっとするのは、山形県は果樹地帯にある学校の特別支援学級児童が特に多いのだそうです。たしかに、りんごが主産業のわが町の中学校にも特別支援学級の生徒が 6 人もいて驚きました。私達の時は現在の倍以上の生徒数でしたが 1 人もいませんでした。

経済優先の国づくりは、地球環境や文化のみならず、私達人間の身体や心を同じように破壊しているのではないのでしょうか。

私は心配しすぎでしょうか。



[参考になるサイト]

- ・一般財団法人アクトビオンドトラスト
- ・公益財団法人 日本食品化学研究振興財団
- ・ネオニコチノイド系農薬中止を求めるネットワーク
- ・農林水産省 消費・安全
- ・厚生省 自殺・うつ病等の現状と今後のメンタルヘルス対策

ハチクマ撮影成功!

ハチクマは、スズメバチなどの蜂の子を専門に食べる鷹で、日本で子育てをして秋に九州から中国大陆に渡り、



東南アジアへ南下し、また春に帰ってくる渡り鳥です。猛禽類のファンにはたまらない存在のようです。でも、私達養蜂家はいつも見ている鳥なのです。巣板を整理する時に、働かない雄蜂の巣を取り除くのですが、その残骸を食べに来るのです。

昨年私が撮影したミツバチの巣箱の上のハチクマのピンぼけ写真を、蜜蝋体験教室をして下さっている鳥海イヌワシ未来館(酒田市/猛禽類保護センター)に送ったところきちんと撮影することになりました。一ヶ月後センサーで写す自動撮影カメラには、ぱっちりハチクマが写っていました。しかも2羽。これには職員も大喜びだったようで、未来館の通信で私のことも含め掲載していただきました。

決意式(載帽式)用の双子キャンドル作り

山形市立済生館看護学校で、もう15年位取り組んでいただいています。今春も1年生30人にご指導させていただきました。1本は式



典でナイチンゲールの灯火からの分灯用に、1本はその後の現場実習時の励みにするために、缶に封印して来年10月に開けられます。

空気まつりで点灯

我町の誇る「空気神社」のお祭りで、今年も灯されました。創建時「空気やそれを産み出す自然に感謝する空気神社には、自然から採れた蜜ろうの御灯明はちょうどいい」と奉賛会のみなさんよりお声かけいただき、使っていただいております。蜜蝋を生み出す自然に感謝し毎年奉納しております。

マгноリア・キャンドル作りました

児童虐待や学習障害など様々な障害を抱えた児童が増え続けている現状。福島県玉川村に友人が理事長を務める児童養護施設ゆめみの里「森の風学園」が開所しました。私が作らせていただいているモクレンの花をモチーフにした「マгноリア・キャンドル」は、造



形作家の小川千帆さんが作った原形です。施設に寄付下さったみなさんにお礼として贈られています。

館山市で蜜蝋体験できます!

4月、千葉県館山市の「蜂の駅」(ひふみ養蜂園)のオープンイベントに呼ばれて体験教室を開きました。南房総は、45年ほど前から実家のミツバチが越冬でお世話になっている私のもう一つのふる里です。そして、ハチ蜜の森キャンドルの蜜蝋を供給してくれる東北各地の養蜂家のみなさんの越冬地です。

この地でハチ蜜の森キャンドルと同じ体験ができるようになりました。南房総観光の折りはぜひお訪ね下さい。

体験教室に改めて力をいれています!

蜜ろうや養蜂をとおして人と森の距離を縮めることを目的にした「ハチ蜜の森体験教室」(ミツバチ観察・森歩き・キャンドル作り・点灯会など)。工房にいらしてもらったり、私が出張したり。おかげ様で25年の歴史となりました。今年は、ふと初心に戻ろうと、スケジュールが混んでいても依頼はなるべくお受けしております。この夏は一月で16団体のみなさんと楽しい時間を過ごしました。出張体験は、県内各地や宮城、遠くは東京、滋賀、福岡にも参りました。

お知らせ

かぼちゃランタンで小人の村づくり vol.24

11月1日、11月7日に開催予定です。

詳しくは9月にホームページをご覧ください。

閉校の高校で双子キャンドルづくり

惜しまれながら3月で閉校した寒河江高校高松農業校舎。最後の卒業生17人と双子キャンドル作りを楽しみました。セロハンにメッセージや絵を描いて貼付け、後日に開催された「卒業を祝う会」で灯されました。



東京「いずみ寮」のクリスマス会

東京都練馬区の婦人保護施設「いずみ寮」のクリスマス会で双子キャンドルナイトをしました。昼のうちに利用者のみなさんで作り、夜に、集まったボランティア、教会、職員のみなさんなど総勢100人のクリスマス会で灯しました。とても優しい時間でした。



伊丹市のアースデイに蜂の子協賛

1.17からのご縁でお世話になっている兵庫県伊丹市。毎年開催されるアースデイの催し「伊丹アースガーデン」の今年のテーマは「食からエコを考える」でした。伊丹昆虫館の昆虫食ブースに私の大好きな蜂の子を協賛させていただきました。話題になったようです。



「幸せのおすそわけ」を子供たちに

4度目の銀座ミツバチプロジェクト(収穫)＋ハチ蜜の森キャンドル(製造)＋松屋銀座(販売)のコラボ「チャリティー蜜蝋キャンドル」が、12月に販売されました。売上はNGO ルーム・トゥ・リードを通して途上国の子供たちの教育支援に充てられます。

ご紹介いただきありがとうございました

- ・リンネル10月号1/f ゆらぎ特集
- ・みちのくビジョン第一巻
- ・鳥海イヌワシみらい館通信 No.15

キャンドルリンクネットワーク活動

阪神淡路大震災20年 1.17 キャンドルナイト

1月17日、山形市社会福祉協議会様の協力により、参加者125人分の優しい祈りを空に



放つことができました。20年前に犠牲になられた皆さんもきっと空の上から見えたはず。

芯糸の両端を何度もうに付けて作る双子キャンドルは、20年前に県内各地で作っていただき、片方を被災地の家族へ送ったのが始まりでした。当時の名簿が残っていた山形市の皆さんにお知らせをお送りしたら、74歳の

時に参加下さった94歳の方から、心あたたまるお手紙と「もう車いすで参加できないから」と協賛金をいただきました。多くの皆さんに支えてもらっての20年の活動でした。



東日本大震災こども未来基金から感謝状

「東北こども博」(仙台大学)での双子キャンドル作りの売上(2年で17万円)を寄付。高成田享理事長よりキャンドルリンクに感謝状をいただきました。この基金は、親を亡くした子供達の学費などに充てられます。

その他のキャンドルリンク活動

- ・3.11「追悼・復興の祈り」400人参加
- ・福島市蓬萊小学校で双子キャンドル作り
- ・阪神淡路1.17つどい用キャンドル製作会
(たつこ保育園、寒河江高校、福島蓬萊地区)
- ・福島市蓬萊地区で双子キャンドル作り

蜜ろうのご協賛 ありがとうございます

- ・遠藤養蜂場 遠藤貞造様 (山辺町)
- ・さくら養蜂園 安藤忍様 (朝日町)

大切に使用させていただきました。

ご協力下さった皆様、そしてキャンドルリンクのすてきな仲間達に心から御礼申し上げます。

ハチ蜜の森料理店③⑦

母なるりんご たっぷりヨーグルト

和合平という所に、朝日町のりんご栽培のはじまりの木があります。130 歳の「紅玉」の木で、いつも優しくあったかいオーラを放っていて、まさに朝日町りんごのマザーツリーと呼ぶにふさわしい木です。花の季節は、実家のミツバチを近くに置くので、もしかしたら受粉しているかも知れません。

昨年 9 月、イラストレーターの平澤まりこ氏率いる山形ビエンナーレのスタディツアー（東北芸術工科大学主催）のみなさんにごちそうしたく、園主の菅井敏一さん（和合）に無理言って完熟前のものをいただいてきました。奥様から「まだかなり酸っぱいから「昂林」に混ぜてちょうどいいよ」とアドバイスをいただきました。さっそく妻が、試行錯誤しながら、ハチミツを入れて煮てくれました。

溶けて形をなくした昂林のペーストの中に、紅玉の酸味のある果肉のかたまりが残っているのがいい食感で、さらにヨーグルトの酸っぱさに調和してとても美味しかったです。

なにより 130 歳のマザーツリーの優しさを感じる幸福な味でした。平澤さんが後日メールで絶賛して下さいました。

マザーツリーと菅井さん、そして妻に感謝。



りんごのマザーツリー（和合平）

蜜ろう利用術⑬

蜜ろう石けん

この春のこと。仲の良い若い男女が、蜜ろうを買いに来て下さいました。そして思いがけず、手づ

くりの蜜ろう石けんをいただきました。おいしそうなミルク色をした素朴なものです。これまでネットからの注文で、石けん作りを目的に購入下さる方は何人もいらっしゃいましたが、本物を見るのは初めてだったので、とても感激しました。

下さったのは、山形市にお住まいの小松勝紀さん。小松さんは、以前は、肌の乾燥がひどく化粧水をたっぷり使っていたのだそうです。ある時、知り合いの美容師の方からもらった手作り石鹸がとても良く感じたそうで、自分でも作ってみたいと思ったのがきっかけだそうです。

作り方は、オリーブオイルに蜜蝋を溶かし、水に溶かした苛性ソーダをあわせ、たまにハチミツを入れたりもするそうです。

蜜蝋石鹸を使うようになってからは、化粧水の量も少しで大丈夫になったそうです。

私はなんだか、今までいろいろ使ってきた市販の洗顔フォームのことが気になってしまいました。さっそくネットで調べてみると、「合成界面活性剤」が入っているものは、皮脂や保湿成分のセラミドを根こそぎ落とし、さらに人工的な保湿成分を無理矢理押し込めるので乾燥肌や敏感肌を招いてしまうと紹介されていました。合成界面活性剤とは、なんと、油污れに強く手荒れを引き起こす食器用洗剤と同じものだそうです。

男の私ですが、若く見られたい気持ちはやっぱりあります。なので、あわてて使わせていただいております。小松さんに蜜ろう石けんをいただかなかったら、私の肌の老化はさらに進んでいたことでしょう。心からありがとうございました。



危ない蜜ろう

残念なことに、危ない蜜ろうの話が聞こえてきました。でも、うちの蜜ろうは、安全なことに気づきほっとしました。それは、化粧品やクリームに使われる蜜ろうが汚染されているかも知れないということです。

どういうことかということ、養蜂では、ミツバチに寄生するダニを駆除するために2種類のダニ剤が使われています。そのうちの一つがフルバリネートを主成分とする薬剤「アピスタン」です。これはハチミツには残留しづらいものの、脂溶性なので、蜜ろうには残留するというのです。

蜜ろうを使った安全な化粧品と思って使っている、実は蜜蝋そのものに薬剤が含まれていて肌トラブルを起こしていることも考えられるのだそうです。そういえば、少し前にいらしたお客様が、蜜ろうの化粧品が肌に合わなかった、現在は蜜蝋を含まないものを使っていると仰っていました。内心、なにかの勘違いだろうと思って聞いていましたが、このことなのかも知れません。

ダニ剤による蜜ろうへの残留は、40×20cmの巣枠（木枠）の中の巣板（巣脾）本体におきます。巣板は最低3〜4年は大切に使うものです。新しい巣は採蜜時に壊れやすいので、一年経ってからのほうが使いやすいのです。

ダニ剤は、巣板と巣板の間に薬剤の染み込んだプレートをぶら下げておき、それにミツバチが接触して、身体に付いたダニが落ちるしくみです。もちろん、残留しづらくても採蜜時に使用することは禁止されています。

では、うちの蜜ろうがなぜ安心かというと、巣板本体の古い巣は使っていないからです。それは、鮮やかな天然色を重視して製造しているのと、カヌレという菓子材料やリップやハンドクリームの材料としても販売してきたからです。

なぜなら、巣本体の古い巣を溶かすと、本来とは違う変色した茶色い蜜ろうになってしまうのです。※茶色になる理由は他にもあります。



材料となる「蜜蓋」(上部の白い所)と
ぶら下がった「むだ巣」(巣板の下部)

また、養蜂では人工的に巣枠にきれいに巣を作らせるためにガイドとなる蜂の巣模様の蜜蝋シート（巣礎）をはさみ込んでミツバチにあてがうのですが、そのシートは、六角形が崩れないよう固いパラフィン（石油化合物）を混ぜてあるのです。ですから、仕入れ先の養蜂業者のみなさんには、絶対に古い巣は混ぜないことを約束してもらっているのです。

万一、パラフィンが含まれていれば、固まった時の形状が変わるので、私は一目で分かります。私の仕入れ査定額はさらに厳しくタダ同然に安くなります。二十数年の付き合いでそのような蜜ろうを送ってくる養蜂家さんは誰もいません。新規に送って下さる方の中には含んでいることがあります。

では、どんな蜜ろうを収穫しているのか。巣板の外側に新しくはみ出してつくられた「無駄巣」と、巣穴がハチミツで満タンになると、ろうで蓋をする「蜜蓋」の部分です。

採蜜の季節、養蜂家は巣板と巣板のすき間をあけて、巣穴を新しいみつろうで盛り上げ深くさせます。さらにその上に蜜蓋をすることになります。その蜜蓋を蜜刀で切らないと遠心分離機で回しても蜜は飛び出さないのです。無駄巣も蜜蓋も、作り立ての新しい巣なので、古い巣が混じることはありません。きれいな色で、かたまりの形が良く、柔らかく、割った時の粒子が粗い。これが新鮮で質の良い蜜ろうの特徴です。

ハチ蜜の森キャンドルの蜜ろうは安全です。

後 記 -----

私は30年程前に、蜂の仕事で毎日通ったりんご畑で花粉症になり、15年程前からは杉や稲も加わり、現在は1年のうち5ヶ月間マスクをしています。「自然相手なのに」と、度々笑われます。ハウスダストも反応し掃除にマスクは欠かせません。10年前には、えびアレルギーになり、間違って食べると猛烈な腹痛と下痢に襲われます。花粉症と似た原因物質を持つのが理由らしいのですが、メロンを食べても喉がチクチク痛みます。タバコは25年前にやめ、魚食菜食を好み、どちらかというと健康系でした。

なのに、なぜあたりまえに空気が吸えず、エビもメロンも食べられないのか。しかし、急増している子ども達食物アレルギーと比べれば、私はそうとう「まだまし」です。

ちなみに妻は、5年程前から特定の化粧品やクリームを使うと顔が腫れ上がるアレルギーを持っています。知人には、果物全般が食べられない方が二人います。

30〜40年程前からじわじわと、自然の生き物である人間は、自然の中で生きられなくなっているようです。なぜこんなことになってしまったのか？アレルギーを起こす度に、いつも、いつも考えていました。そして、私なりの結論ができました。

まず、もともと自然の食品も花粉も、ダニの糞すらも、人に悪さする有害物質ではないことは明白です。きっと自然にはない化学物質で汚染された花粉や食品を摂取することにより、身体のIge抗体がそれらを有害なものとして記憶してしまうのではないのでしょうか。そして、いったん記憶してしまうと、汚染されていないものでも反応するようになってしまう。花粉やエビやダニのせいにしていましたが、ほとんどのアレルギーは、それらにくっついた化学物質由来のものだと思うのです。

花粉+大気汚染物質、農薬

ほこり+建材や家庭の殺虫剤、ホルムアルヒド

化粧品+添加剤、防腐剤、農薬

食品+農薬、添加物、遺伝子組み換え

輸入エビの恐ろしい記事を「安全な食べものネットワーク Alter」のサイトで見つけました。私がエビアレルギーになった理由はきっとこれです。



市販されているエビは、養殖エビが圧倒的です。養殖時に使用される薬剤は、病気を防ぐための抗生物質、からだを大きくするための成長促進剤、食欲を刺激するための食欲増進剤などですが、それでも病気の蔓延で長期の養殖は無理で、数年という短期間で池は放棄されています。あまりの汚染のため、後の使いみちがないという状況になっています。

また加工時においては、黒変防止剤、保水剤、ツヤ出しワックス剤、人造エキス(エビの味)などが使われます。エビはすぐに黒変するために、見かけの鮮度だけごまかす黒変防止剤(酸化防止剤)が使われます。エビ本来の味が消えるためにグルタミン酸、あるいはイノシン酸系の食品添加物を加えて、一般の人々の慣れ親しんだ味に仕立て、さらに臭い消しのための薬も使用します。歯応えをよくするために保水剤、保湿剤も加え、カスカスになった食感をプリプリ感にごまかしています。

この加工時の薬品は、天然エビでも使用されることが一般的なので、天然エビということだけでは安心できません。魚介類の中で、エビへの薬品使用は一番の問題といえます。バナナで提携しているATJの粗放養殖のエビも、出荷時に次亜塩素酸で消毒をしているため、オルターでの取り扱いとは休止したままになっています。 文責 西川栄郎(オルター代表)

私は、私の身体を長いこと卑下していました。しかし、私の身体はエビに含まれる添加物や薬に敏感に気づいてアレルギーを起こし「こんな危ないものを食べていたら癌になるぞ」と警告してくれていたのです(涙)。

日本は、農薬や添加物の残留基準が甘い国です。この調子では、アレルギーをおこす食品はどんどん増えてくるのでしょうか。敏感な子供達のアレルギーこそ、身をもって私達に危険を知らせてくれている「神」です。アレルギーを抑えることよりも、全ての食品や環境において生産・製造の見直し、そして改善を切にお願いしたいものです。

通信「ハチ蜜の森から」のご購読について

定期購読を希望される方は、82円切手を5枚ほどお送り下さい。5号分(4〜5年)お送りいたします。購読期限は、お送りした時の封筒の住所下に、たとえば36〜40と号数を明記しています。